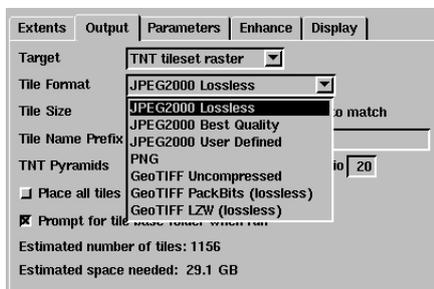


タイルセットに直接モザイクする

タイルセットとは、地理データセットを効率的に表示するために設計されたマルチファイルオブジェクトです。TNT製品だけでなく、Google マップや Google Earth、オープンレイヤもそういった目的でタイルセットを使っています。TNTmips の新しいモザイク処理では、任意の数の画像をどんなサイズでも TNTmips のタイルセットラスタに直接モザイクすることができます。出来上がったタイルセットラスタは GeoJP2 や PNG、GeoTIFF 形式の同一サイズのファイル群にリンクしているため、非常に大きな画像の表示や処理を高速かつ効率的に行うことができ、また個々のタイルを他のソフトウェアから直接使用することができます。モザイクはグレースケールかカラー合成のいずれかで作成することができます。カラーのモザイクは入力ラスタとして RGB ラスタやカラー合成のラスタを混ぜて使うことができます（詳しくはテクニカルガイドの“モザイク:グレースケール、マルチバンド、カラー (Mosaic: Grayscale, Multiband, and Color)”をご覧ください)。入力画像としてプロジェクトファイル中のラスタの他に、GeoJP2、GeoTIFF、MrSID などの外部にリンクしている画像ファイルを含むこともできます。

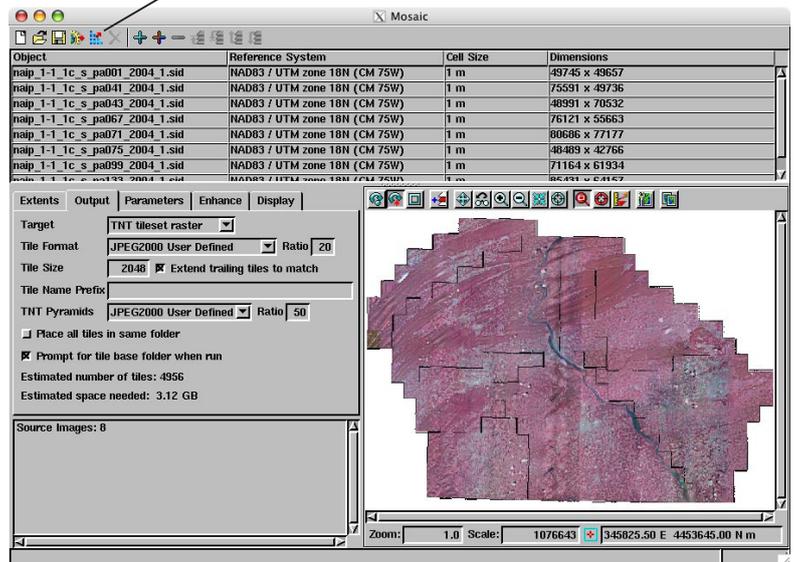


それから、タイルサイズやタイル形式を、GeoJP2 や GeoTIFF 形式などの圧縮オプションを含めて設定することができます。“JPEG2000 User Defined” オプションでは、損失ありの圧縮をした GeoJP2 タイルファイルに対して圧縮比を設定することができます。タイルセットラスタと一緒に格納されるピラミッドは親画像よりも表示画質を犠牲にすることなく高圧縮することができるため、別の圧縮オプションをピラミッドに対しても設定することができます。

[出力] タブパネルではタイルファイルを格納するフォルダ構造を決めるオプションもあり、タイル名のプレフィックスを与えたり、タイルを格納するフォルダを指定するか作成するよう促されます。[全てのタイルを同じフォルダに保存 (Place all tiles in same folder)] ト

グルにチェックを入れていない場合、各行のタイルに対応するファイルがフォルダ中の別々のサブフォルダ（名前は自動的に付けられます）に格納されます。（1つのフォルダの中に非常に多くのファイルを保存すると、OS 上の

[不完全なジョブの再開] アイコンボタン



限界からパフォーマンスが下がることがあります。)[出力] タブパネルにはタイル数の概算値と、現在のタイルセット設定に必要なディスク容量の概算値も表示されます。

非常に多くの画像を大きなタイルセットにモザイクする場合（例えば、アメリカ全州の1メートル解像度の正射画像など）、処理には時間を要し、電圧変化や停電（日本では滅多に起こりません）、システムクラッシュで中断することもあります。異なる座標参照系やセルサイズを持つカラー画像をモザイクする場合に特に起こります。個々のタイルファイルは段階的に保存されていくため、途中で中断された不完全なタイルセットのモザイク操作を再開、完成することができます。再開するには、新モザイク処理を再起動し、[不完全なジョブの再開] ボタンを押します。再開するタイルセットのモザイクを選択するように催促されます。（タイルセットのモザイクを実行すると、出力のプロジェクトファイルと同じフォルダの中に、ファイル拡張子が *.job のテンポラリファイルが自動的に作成されます。処理が完了すると自動的に削除されます。操作を再開する際にジョブファイルが有効であるためには、全ての入力・出力ファイルが元の場所にある必要があります。）その後処理によって残りのタイルファイルが作成され、タイルファイルにリンクしたタイルセットラスタが完成します。